

06 とりわけ高齢者の皆さんの安全・安心に向けて 特殊詐欺の撲滅を

高齢者の皆さんからお子さんに至るまであらゆる世代の住民の方々の安全・安心の確保には、刑法犯認知件数の減少とともに体感治安の向上が求められます。安心感の醸成が課題となります。

高齢者の皆さんに着目してみると、刑法犯の内、詐欺の被害の45%を占め、とりわけ振り込め詐欺等の特殊詐欺の被害の実に73%を占めることが突出した事実として浮かび上がります。

兵庫県だけでも、平成25年の特殊詐欺の被害額は20.1億円、平成30年11月末締めで15.24億円の被害額となります。警察庁では、明らかになっている被害額は、実際の被害総額のおおよそ3分の1だと推測しています。ということは、兵庫県だけでなく実際には年間50～60億円の実被害が発生している蓋然性が高いということです。

ここ垂水区でも、数年前には県内署轄ワースト1の年間被害額が発生しましたし、残念なことに年間被害額の上位を常に占めて来ています。高齢者の皆さんを特殊詐欺の被害から守ることこそ、安全安心に満ちた垂水ライフに向けて喫緊の課題であります。

どうか皆さん、特殊詐欺に関しては、今までの常識をかなぐり捨てる覚悟を持って下さい。心からお願い申し上げます。しかもこの事は、高齢者の皆さんのみならず、あらゆる世代の皆さんにお願い申し上げます。まさに、高齢者の皆さんから、小さなお子さんに至るまで。

何故ならば、特殊詐欺の犯罪者チームは、近年益々巧妙化しており、所謂犯罪者らしからぬ、むしろ普通の、当たり前前の、ビジネス、商売等の本物の従事者の方々よりも、礼儀正しい物言いであったり、完璧な敬語を使っていたり、口調も良い感じに優しかったり、丁寧だったり、爽やかだったりするからです。

実際の犯行チームの話している内容の録音を聞かせて貰いましたが、私自身びっくりしました。都市銀行の男性行員さんが電話をかけてきたというレベルでありました。これは騙されると実感しました。

だから、本当に、今までの常識をかなぐり捨てる覚悟を持って下さい。自分だけは大丈夫と思わないで下さい。そう思った瞬間、そう思った人の関係者が、被害の穴に落ちやすくなるんです。犯罪者チームの思うつばに自らはまることを意味します。

そして、この特殊詐欺の犯罪者チームは、本当にチームで動いているのですが、徹底した分業制をひいており、下手すれば、チーム内の構成員同志は全く知らない者同志である可能性すらあります。首魁かその手先のヘッドクォーター役が唯一全てを把握していて、後は全て駒、しかも負わされる役割によっては、最初は犯罪に荷担していることすら自覚していない、高額バイトに従事すると信じ込まされて足を踏み入れた、つい先日まで犯罪歴もない普通の市井の人であったりするのです。結果として、詐欺という重い犯罪の片棒を担いだ経歴を免れることはできません。

高齢者じゃないから自分には関係ないと思わないで下さい。もう一度繰り返します。本当に、今までの常識を一切かなぐり捨てる覚悟を持って下さい。自分だけは大丈夫と決して思わないで下さい。そう思った瞬間、そう思った人の関係者が、様々な被害の穴に落ちやすくなるんです。犯罪者チームの思うつばに自らはまることを意味します。

この難儀な特殊詐欺の魔の手から唯一、スパッと、サッパリ縁を切る方法があります。

家の電話回線をナンバーディスプレイ対応にして、防犯機能付電話通信機器を導入することです。

「私は家電話が特殊詐欺の主戦場だから、携帯電話にしたんで安心、安心。」と思われた方も大勢いらっしゃるのではありませんか。悲しいお知らせです。犯罪者チームから早速携帯電話に連絡が入るようになり、彼らはもう易々と嬉々として携帯電話、スマートフォンを相手先に犯行に及んでいます。彼らの天敵は、先程もご紹介しましたように、家の電話回線をナンバーディスプレイ対応にして、防犯機能付電話通信機器を導入することです。

特殊詐欺は、電話を使って被害者をだます犯罪であり、犯人からの電話に出なければ、未然に被害を防止することができます。

不審な電話をシャットアウトするために、防犯機能の付いた電話通信機器を紹介して頂けます。無料貸し出しが受けられるケースもあります。警察署の生活安全課に是非問い合わせしてみてください。



07 港の元気は日本の元気 神戸港・阪神港の元気は兵庫県・西日本の元気

私 吉岡たけしは、本会議場で過去2回一般質問の際、上記の表題の通り、声高らかに本気で申しました。

神戸港・阪神港の元気の源泉は、日本列島の太平洋側を経由して神戸港に寄港する北米航路等「国際コンテナ貨物」の外洋航路が盛んになることです。

神戸港・阪神港並びに京浜港、日本一の自動車輸出港湾である名古屋港等日本の国策重要港湾は全て太平洋側にあって日本海側にはありません。釜山港等をハブとする「日本海側」ルートの国際物流に日本の貨物が持っていけないように、具体的には、県内外を問わず、「舞鶴港に集荷」されないように、もっともっと戦略的に取組まなければなりません。

外洋航路のコンテナ船も燃費をはじめコスト管理が益々厳しく徹底され、それ故にどんどん大型化されつつあり、将来的には水深18m以上が必要となってきます。

平成30年2月の予算特別委員会において、私 吉岡たけしが大阪湾フェニックス事業の3期事業について問うたのは、まさにこのフェニックス3期事業により生み出される埋め立て地こそが、現在の六甲アイランドの南側沖合に完成する水深18m以上のバースとなる予定地にほかならないからであります。

神戸港そのものの管理者は勿論神戸市ですが、神戸港への集貨・創貨に関しては、兵庫県としても主導的に取組むべきであり、具体的には、県内はもとより、中京圏以西、西日本の貨物をどう寄せてくるかが神戸港の元気を左右することになります。

わが兵庫県、とりわけ阪神間から神戸・垂水にかけては、住宅地としての魅力では、日本のトップクラスの中でも相当いい線までいっていると思います。



後はブランディングとその広報戦略であります。旧5国すなわち播磨、淡路、但馬、丹波の西半分、摂津の西半分からなる兵庫県の誕生の経緯は神戸港を支えんが為でありました。143年経った今、輝かしい兵庫県の未来、どこよりも夢叶う・兵庫の実現には現役バリバリの国際コンテナ港湾「神戸港」が不滅でなければなりません。

魅力あふれる、益々発展する国際コンテナ戦略港湾「神戸港」がある。世界中のクルーズ船も再々寄港してくる。元々国内トップクラスであり、世界的にも素晴らしい中心市街地へのアクセスを誇る「神戸空港」、運用の見直しが効いて益々使い勝手が向上してきた。リアは来ないけれども、新幹線の「のぞみ」等最優等列車の停車駅「新神戸」がある。阪神高速湾岸道路西伸部、名神湾岸連絡線、神戸西バイパス、播磨臨海地域道路が順次開通する。よって自動車利用の利便性、時間コストの縮減が図られる。顔がない、顔が見えないと揶揄された三宮再開発も緒に就いた。県内はもとより西日本各地への高速バスネットワークも益々整備されてきた。元々全国トップクラスではあったが、お隣の大阪に先を越された感のあった、県内鉄道資産の有効活用にも明るい光が差してきた。

こうした近未来を享受したい、共有したい、共につくりたいという、外資系企業の日本のヘッドクォーター、大企業や成長産業の企業の本社や事務管理部門に是非とも神戸周辺へ集積して頂きたいものであります。兵庫県・神戸市等でしっかりとスクラムを組んで成果を上げていきたいものです。勿論製造拠点の進出も大変ありがたいことですが、それ以上に外資系企業の日本のヘッドクォーター、大企業や成長産業の企業の本社や事務管理部門の神戸周辺への集積はもっともっとありがたいことであります。今、県も我々も極めて深刻な現象だと捉えている事実があります。

若い女性の皆さんが、高校卒業の年齢18才もしくは大学卒業の時点で、多数兵庫県から転出しています。転出先は圧倒的に首都圏です。県内の自宅から通学可能な近畿圏の大学の魅力向上も望まれることですが、それ以上にやはり魅力的な就職先が県内にあるか、ないかの差は如何ともしがたい程の差をもたらすはずですが。逆に、他の都道府県の若い女性の皆さんが、魅力的な就職先があるかと次々転入してきてしまう、こうしたイメージを現実のものとするのが今求められています。

若い女性のみなさんの県内人口が増えてこそ、その先に人口の自然増に至る明るい希望の光が見えてくるはずであります。だからこそ、外資系企業の日本のヘッドクォーター、大企業や成長産業の企業の本社や事務管理部門に是非とも神戸周辺へ集積してもらえるよう全力を尽くして参りましょう。

「風が吹けば、桶屋が儲かる」ならぬ、「神戸港が益々元気になれば、兵庫県の人口が増える」。平成31年、平成のその先の時代においても、どこよりも夢叶う・兵庫の実現に向けて、しっかりと取り組んで参ります。

よっしープレスは、垂水の“よっしー”こと、 兵庫県議会議員 吉岡 たけし の報告紙です。

くらし満足度No.1の垂水を目指して、
神戸市垂水区と兵庫県政をつなぐことを
目的に、兵庫県の政治を分かりやすく
伝えます。

兵庫県議会 自民党 議員団

01 兵庫県議会議員 吉岡 たけしはこんな人物です。

- よしおか たけし 吉岡 健
- 1962年10月13日生、B型
- 灘中学・高校卒
- 早稲田大学法学部卒
- アンリツ(株) 官公営業部
- 千代田火災海上保険(株) 横浜支店・神戸支店
- 衆議院議員 秘書
- 参議院議員 政策担当秘書
- 2015年 兵庫県議会議員選挙初当選 (15,239票)
- 警察常任委員会委員、産業労働常任委員会委員、建設常任委員会委員、自民党 兵庫県連選対副委員長、自民党 神戸市垂水区第一支部長

02 兵庫県政報告 「よっしーのはなし」をいたします。

政務活動費の不適切な利用を発端に、信頼を大きく失った兵庫県議会。けれども改選を経て、新人がたくさん登場し生まれ変わりつつあります。垂水区内各地で(街頭、ミニ集会等)県政報告いたします。

03 ご意見・ご相談等については下記までご連絡ください。

兵庫県議会議員 吉岡たけし事務所
〒655-0034 神戸市垂水区仲田1-8-24-101
TEL : 078-708-8600 FAX : 078-708-8610

発行日：2019年2月28日 兵庫県議会の様子をインターネットでご覧いただけます。
発行元：兵庫県議会議員 吉岡たけし事務所 <http://www.hyogokengikai.jp/broadcast/index.html>
インターネット放映中 本会議の代表質疑・委員会での質問などが手軽にご覧になれます。

01 切れ目のない子育て支援、小1の壁等打破に向けて 学童保育の量の拡大と質の向上

主に共働き家庭等の児童が放課後等を安全・安心に過ごせる居場所となる放課後児童クラブ、いわゆる学童保育の量の拡大と質の向上は喫緊の課題となっています。

国においては、2014年、放課後子ども総合プランを策定し、共働き家庭等のいわゆる小1の壁を打破するため、また、次代を担う人材を育成するために全ての就学児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験活動を行うことができるよう、一体型を中心とした放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の計画的な整備等を進めています。

2015年から本格的に実施されている子ども・子育て支援新制度により、放課後児童クラブの国の制度も、対象児童が小学校6年生までに拡大されたことや、登録児童数1人から補助対象となる等、拡充されています。

兵庫県としても、待機児童の解消、必要とされる全ての小学校区への設置及び開所時間の延長や質の充実に取り組むと、ひょうご子ども未来プランで目標設定をしています。また、県の負うべき役割とされている放課後児童支援員認定研修や資質向上研修等により、質の向上にも取り組むたいとしています。

希望してもなかなか入れてもらえない。限られた施設面積の中で少しでも多くの受入希望をかなえているために、児童一人当たり面積の確保が甚だ心もとない。開所時間が保育所より短く、保育所時代より時間の制約が厳しいなどといった切実な声もよく耳にするとところであります。

このような現実と放課後等に子供が安全・安心に過ごせる居場所として、学童保育を必要とする家庭が安心して預けられるという理想との間には、相当なギャップがあるのが実態ではないかと思えます。

答弁： 柏由紀夫健康福祉部長
「18時台に閉所する放課後児童クラブがあり、勤務時間との関係で検討する必要があるなどの課題もございますことから、今後とも市町と連携し、開所時間の延長など、質の向上と施設整備による量的拡大に取り組んでまいります。」

【吉岡たけし再質問】
「やはり保育所なんかと同じで、待機児童の数というのは多分これを満たしていただけばいたただくほど、また新たな待機児童数が発生していくという状況は、やはり社会の情勢変化の中で否めないかと考えております。そうした中で、私の地元、神戸市垂水区とほかの区も見ましても、開所時間が、やはりお勤め帰りの皆さんがお迎えに行ってしまう時間等を考えますと、遅い時間まで開いているというのが本当に区内に1ヵ所しかない。」

よっしーPRESS

吉岡 たけし

よっしープレス
Vol.05 / February 2019

兵庫県議会議員(神戸市垂水区)
警察常任委員会副委員長
前 自民党政務調査会副会長

CONTENTS

- 01 切れ目のない子育て支援、小1の壁等打破に向けて
学童保育の量の拡大と質の向上
- 02 商店街の活性化について
外国人観光客の新たな需要開拓による商店街の活性化
- 03 瀬戸内海を豊かな海に
漁業者の皆さんが生業として次の世代にバトンを渡せるように
- 04 市営地下鉄西神・山手線と阪急電鉄神戸線の相互乗り入れについて
- 05 県内鉄道資産の活用 姫路と伊勢志摩線賢島ほかを
結ぶ座席指定特急の運行の実現
- 06 とりわけ高齢者の皆さんの安全・安心に向けて
特殊詐欺の撲滅を
- 07 港の元気は日本の元気
神戸港・阪神港の元気は兵庫県・西日本の元気

県政 05

垂水区は5キロかける5キロの範囲といえども、やはりこれはかなりのご負担でございまして、今後の方針といたしまして、県の方でも指導力を発揮していただいて、やはり開所時間の延長に関してはしっかりと協議をしていただいで、実際に社会で活躍するに当たって、児童を安全・安心にきっちり預けられる体制というのを、やはり構築していただきたいと思っておりますので、その辺の今後の取組につきまして、再度ご答弁願いたいと思っております。」

答弁： 柏由紀夫健康福祉部長
「放課後児童クラブの開所時間の延長というご指摘でございます。18時台に閉所する放課後児童クラブがあるということで、現実的にはかなりの数に上っております。開所時間の延長については大きな課題だと考えておりますので、今後積極的に取り組んでまいりたいと思っております。」

【吉岡たけし】
「今もご答弁いただきました点で、我々政調会の方での団体要望等でも、看護協会の会長さんご自身から、やはりそのところは県としても市町に対してしっかりと指導性を発揮してほしいというご要望の声を今年もいただいたところでございまして、ぜひとも推進をよろしくお願い申し上げます。」

答弁： 生安衛子ども政策課長
「女性就業率の上昇などを要因として、依然として都市部を中心に待機児童が発生しています。そのため、市町に対して受け入れ児童数の拡大や待機児童クラブの過密化解消のためクラブ数の増加を一層働きかけるとともに、国庫補助事業や県単独事業を活用した開所時間の延長など地域のニーズに応じた事業展開を推進しています。さらに、国補助金を活用した支援員の更なる処遇改善を市町に働きかけるとともにその改善を国にも要望しています。今後とも市町や関係者と協議を重ねながら、放課後児童クラブの量的拡充や質の向上に取り組んでいきたいと考えていますのでご支援をよろしくお願い致します。」

【吉岡たけし】
「私も自民党の副会長として政調の部屋にいるときに、この件で色々意見を申し上げ、次の第3次ひょうご子ども・子育て未来プランに反映させるべくしっかりと頑張りますとご返答を頂き、そのとおり活動もしていただき本当に感謝申し上げます。」

残念なことにも今都市部という言葉が出ました。本当に神戸市と姫路市、この二つの大きな市、県が目一杯努力いただいた予算もなかなか全部執行できないというそういう状況に立ち至ったのだらうと思います。でもやはり想定されることはもう既に分かりきっていることであるわけですから、早め早めしっかりと頑張りよと、いい意味での強力な指導をこれからもしっかりと頑張りていただきたいと思います。」

02 商店街の活性化について 外国人観光客の新たな需要開拓による商店街の活性化

「商店街の活性化について」

私たち垂水に住まう者には、今でも「生きている商店街のある街」に住む喜びを味わえるという幸せがあります。でも油断は禁物です。平成29年度産業労働部の決算特別委員会で申し上げさせて頂いた「外国人観光客の新たな需要開拓による商店街の活性化について」の問題提起は、本当に今の現実問題として取り組んでいくべき課題だと思います。日本人の当たり前の生活を体験してみたいインバウンド観光客と垂水をどうマッチングさせていくのが重要だと思います。

垂水の商店街には近接して元気な銭湯も営業中ですし、夜遅くまで開いているパー等も近隣に沢山存在します。食事処や居酒屋等も多種多様揃っています。結構垂水はナイトライフに対応できると思います。区内には他にも銭湯もスーパー銭湯も存在します。これらは本当に凄いインバウンド向け資産です。大阪市東淀川区の阪急淡路の商店街は、ビルの1Fの銭湯と近隣のゲストハウス木雲（もくもく）を中心にインバウンドでまちおこし実践中です。実施したことは、私の質問で取り上げさせて頂いたような地道なことでもあります。ご当地では結構欧米のインバウンドも多いようです。

「外国人観光客の新たな需要開拓による商店街の活性化について」

商店街がその地域で、現在確保しているマーケットも長期にわたっては安泰とは言えません。立地条件、競合条件の変化、時間の経過に伴う居住者の年齢構成の上昇やライフスタイルの変化等に左右されるからです。商店街が持つマーケットは変化していき、それにつれて、商店街のニーズや期待、商店街の役割も変化します。

少子化により地域の夜間人口が減少し、さらに高齢化がますます進行するなど、商店街の市場規模が縮小し、客数、そして客層に変化が生じています。



03 瀬戸内海を豊かな海に 漁業者の皆さんが生業として次の世代にバトンを渡せるように

瀬戸内海を豊かな海にすること、漁業者の皆さんが立派な生業として次の世代にバトンを渡していけること—この2つを叶えることは、将来の日本の食の「安全保障（タンパク質摂取量の確保）」とユネスコ無形文化遺産「日本食」文化の継承に必要不可欠であります—

「浜の元気は垂水の元気、兵庫の元気、そして日本の元気」私 吉岡たけしが真顔でこう声高に訴える所以です。

我が国の漁獲量は年々減少しており、資源状態の悪化が憂慮されています。瀬戸内海においてもその例に漏れず、漁獲量は大きく減少しています。

瀬戸内海では、多くの藻場や干潟が埋め立てにより消失し、海岸線もその多くが直立の海岸構造物となり、浅場機能が低下しており、豊かな海への回復の妨げとなっています。藻場、干潟といった浅場の復元、再生を図ることの重要性はおのずと明らかではあり、現在進めている西播磨地区における増殖場造成等の大きな取組と並行して、現在の構造物に浅場の機能を付与し、高めていくというような対処も必要かと思われま

瀬戸内海環境保全知事・市長会議関連のワークショップにおける徳島大学、上月康則教授の浅場機能回復に関した研究報告において、「藻場造成や人工干潟といった規模には至らないが、配慮適用できる場は無数にある。護岸等の構造物においても、形状を複雑にすると、さまざまな生物がそこを利用し、食物網が形成されるのが分かった。また、環境の悪化する場では、小規模なものでも多くの生物に利用されていた。どのような場や構造に対しても適用できる環境配慮の技術や構造物はおおよそ開発されており、コストについては安価でできるものも多く、大規模なものであっても十分なB/Cが得られた事例もある」と述べられました。

また、現役の漁師の皆さんからも、変に海の底を触られるのは怖い、海底の環境を悪化させることなく、藻の生育環境の整備、貧酸素状態を解消できる方策の推進、魚礁の設置等は積極的に早く取り組んでほしいという生の声をよく耳にします。

答弁：井戸敏三兵庫県知事

「瀬戸内海を豊かな海にするための浅場機能の回復についてであります。

瀬戸内海環境保全特別措置法の改正を踏まえまして、平成28年に策定しました



マーケットの縮小、商圏の縮小、常住人口の高齢化と減少が顕著になる一方で、商店街では、少数派の顧客でしかなかった外国人観光客が一つのマーケットを形成する規模になりつつあるところもあります。こうした中、縮小する商店街マーケット規模の補填、補充を目指して、インバウンドを商店街に誘導することが現実の目標となってきました。

近年、以前のように団体ツアーは大幅に減り、個人旅行が中心になっています。このため、日本での行動は、押し寄せ型から自己企画型に変化し、目的や動機がより鮮明になり、行動がますます多岐多様になっています。メジャーな都市や観光地だけではなく、地方の隠れた拠点の訪問や食事、買い物、体験等の特定の行動、伝統文化やパワースポット、日本人の生活そのもの等にも目が向けられるようになり、どんどん多様化が進んでいます。

商店街でインバウンド対応を進めるためには、二つの柱が必要です。受け入れ体制の整備と誘客情報発信であります。

受け入れ体制の整備は、実際にインバウンドを誘導したときのための環境及び体制づくりで、人材教育、多言語対応、決済環境、免税対応、通信環境等のハード・ソフト両分野の多方面にわたります。

誘客情報発信は、その前段となるインバウンド呼び込みのためのPRであり、誘客活動そのものであります。この二つの柱を可能な限り速やかに確立しつつ、連携を図りながら事業を進めることが重要であります。

県においては、平成26年10月から拡充された外国人旅行者向け消費税免税制度を活用し、外国人観光客の新たな需要開拓を図るなど、インバウンドによる商店街の活性化の促進に努めてこられたと思いますが、これまでの取組と今後の展開についてお伺いします。」

答弁：竹村英樹産業振興局長

「商店街にとって、商圏人口の減少や高齢化など、客の市場規模が縮小していく中にあり、年々増えているインバウンド需要を取り込むことは大変重要であると認識しています。このため県では、平成26年度から商店街での外国人の受け入れ体制の整備に取り組む、これまでに神戸元町商店街など9つの商店



街に対して支援を行ってきました。

この事業の中で、案内地図の作成やメニューの多言語化、それから社員や定員に対して、簡単な会話も含む受け入れスキルの向上研修などにも取り組んできました。

今年度からは、中国人観光客の消費を取り組むべく、キャッシュレス機器の導入を有馬商店会や三宮センター街などで進めています。

誘客情報発信については、例えば神戸の岡本商店街では、この事業で、昨年度海外向けのウェブサイトを立ち上げたり、台湾で人気のあるインスタグラムを運営している方と組んで、SNSで情報発信するなどに取り組んでいるところであります。

こうした商店街独自の取り組みに加えて、今後は県の観光サイトとも連携して、外国人の県内商店街への呼び込みも検討していきたいと思っています。

来年度からは、ラグビーワールドカップや関西ワールドマスターズゲームなどゴールドenspootsイヤーズも始まり、関西、兵庫へのインバウンドのさらなる増加が見込まれるところであります。この機会を生かして、需要がさらに開拓できるよう、商店街への外国人の誘客促進と支援に取り組んでいきます。」



供給拡大を促すとともに、護岸等を環境配慮型にする事業者の取組を支援します。さらに、藻場・干潟等の再生・創出を図る等、豊かで美しい瀬戸内海の再生に取り組んでいきます。」

【吉岡たけし】

「京料理、大阪の食い倒れ、兵庫の食、どれも支えてるのは、ほんまに魚のうまい瀬戸内。やっぱり瀬戸内の魚が一番うまい、これだけは間違いない。昔々の御食国のときからそうや。漁業者さんらは異口同音にこう言われます。

レジャーフィッシング、大前提として、モラルというものがなきゃダメだと思います。この辺は、もう県の取り組み云々だけでなく、全体として、兵庫県だけではなく、日本の無形遺産である瀬戸内をどう守っていくのかという大きな視点で見えていかなきゃいけないと、石器時代からの漁業が本当に立派に食べていける生業として次の世代に渡していけるように、我々も努力して参りたいし、県当局のご努力もまたお願いします。」

答弁：秋山和裕環境部長

「瀬戸内海側では神経締め後に、低温流通させる、華姫サワラ、あるいは、魚の脂の乗り具合を計測して厳選した明石鯛を出荷する取組など、新たな鮮度保持技術等を生かして、本県の水産物が県内はもとより東京などへも広く出荷されるようになってきています。また、昨年、シンガポールでの輸出促進プロモーションでは、活け締めして低温輸送した明石鯛、あるいは明石だこなどの県産水産物が出品され、現地シェフやバイヤー、飲食店から高い評価を得ており、鮮度保持技術を使った輸出促進の取組も更に拡大していきたいと考えています。

今後とも本県自慢の水産物を、新たな技術も含め、鮮度保持技術を効果的に活用し、広く国内外にPRし、販路開拓・輸出促進を図っていきます。」

【吉岡たけし】

「兵庫県産のブランド水産物にシンガポールや香港の食卓を飾って頂けるように、豊かな海に向けての取組等を、我々挙げて進めなければならぬと思っています。

やはり浜産をどう高くしていくのか。高く買って頂ける所にしっかり売っていただくということで、輸出のほうの取組も益々応援します。」

04 市営地下鉄西神・山手線と 阪急電鉄神戸線の相互乗り入れについて

平成29年6月、定例会における知事答弁のとおり、神戸市営地下鉄西神・山手線と阪急電鉄神戸線の相互乗り入れについては、平成26年度から神戸市と阪急電鉄が勉強会を開いて、既存鉄道網を含めた交通ネットワーク全体のあり方や旅客動向の変動、まちづくりへの影響、両路線を接続するための技術的な課題、他都市の事例などを研究しています。

阪急電鉄は既に3本の新線構想を打ち出していて、神戸市営地下鉄直通は4本目の構想に当たります。発表の順番としては4番目ですが、この神戸市営地下鉄直通のみが近畿地方交通審議会の平成16年の答申第8号として採択されているプロジェクトであることが、少しでも有利に働いてほしいと期待を大しております。

事業者としては、四つもの大プロジェクトを進めるに当たって、常識的には支援を取りつけやすいところの優先順位を高くして事業採択するのではないのでしょうか。県としても阪急神戸線と神戸市交通局西神・山手線の相互直通運転の実現に向けて、少しでも優先順位が高くなるように後押しすべきだと考えます。」

答弁：井戸敏三知事

「阪急電鉄神戸線と神戸市営地下鉄西神・山手線の相互直通運転は、両路線の乗り継ぎ利便性を高めるだけでなく、沿線住民の利便性の向上や沿線地域への定住人口の増加にもつながる構想であると考えます。

この相互直通運転の実現には、まず多額と想定される事業費と、それに対する効果や採算性の見通しを立てる必要があります。二つに、駅の改良や路線接続についての技術的な課題を克服しなければなりません。三つに、乗降者数や利用動線の変化なども踏まえる必要があります。このように多岐にわたり検討する必要があります。

また、接続ルートや接続箇所については、さまざまな意見があり、例えば三宮周辺で接続することになった場合、北神急行と既存の鉄道網との関連を考える必要がありますし、現在進められている三宮周辺地区の再整備基本構想への位置づけの必要も出てくると思われますから、交通ネットワークやまちづくりなど多角的な検討が必要です。

このため、平成26年度から神戸市と阪急電鉄が勉強会を継続的に開催しています。平成29年11月には、市の局長と阪急電鉄幹部の意見交換が始まり、さらに市から今年度は実現可能性も踏まえて複数案に絞り込み、市としての今後の進め方について、一定の考え方を整理していきたいとの考え方も示されており、検討が加速化されつつあります。

県としては今後、神戸市と阪急電鉄との検討の熟度が高まり、概略の接続ルートや構造等、実施に向けた方向性が定まった段階で、まちづくりの観点から助言してまいります。また、両者から協力の要請があった場合には、どのような支援ができるのかについても検討してまいります。」



05 県内鉄道資産の活用 姫路と伊勢志摩線賢島ほかを 結ぶ座席指定特急の運行の実現

2013年の近畿日本鉄道の株主総会にて、当時の小林社長が、株主からの質問に、「姫路まで乗り換えなしで行ける。鉄道の使命とはそういうものだと考えている。姫路まで近鉄特急を乗り入れさせたい」と表明したと新聞報道されました。また、近鉄本社にて、当時の岡本副社長と私、面談いたしました折、近鉄としては、将来、姫路と伊勢志摩線賢島ほかを結ぶ特急の運行を何としても実現させたいと熱く語っておられたのを今も忘れることができません。

訪日経験回数が多いインバウンド旅行者ほど、観光列車などの列車の旅を希望しているようです。それぞれの県内に世界遺産、日本遺産が数々所在する三重県、奈良県と兵庫県を直接つなげることを、御食国同士を巡る中でのグルメ三昧を、そして近畿・関西の周遊の新たなより魅力的なプランの出現を近畿日本鉄道の特色に託してみたいと思います。

姫路・東播磨・神戸・阪神間と近鉄沿線の観光拠点とが、座席指定の直通特急でつながることをぜひ後押しするべきと考えますが、ご所見を伺います。

答弁：濱浩二県土整備部長

「近畿圏の私鉄各社が鉄道ネットワークを活用して、相互乗り入れなどに取組むことは、広域的な交流を促進し、地域活性化に寄与するものです。

団体ツアー客を対象とした臨時特急を近鉄名古屋駅から甲子園駅間、賢島駅から神戸三宮駅間などで、年間十数回運行しています。

今後、近鉄特急が山陽姫路駅まで乗り入れ、近鉄沿線の賢島駅や近鉄奈良駅などの観光拠点駅から世界遺産姫路城がある山陽姫路駅まで乗り換えなしで行けることになれば利便性が向上し、訪日外国人などの誘客が促進され、地域活性化に資すると考えられます。

一方、山陽姫路駅までの乗り入れを実現するためには、技術的課題を克服するための投資に見合う採算性の確保が前提であり、臨時便ではなく、通常ダイヤでの運行が必要でございます。そのためには、複数の事業者が、1時間当たり14本乗り入れて、既に過密ダイヤとなっている新開地駅等での安全確保、阪神、山陽の各社が近鉄車両を運転するための新たな社員確保など、事業者間で調整が必要な課題も多くございます。

このため、まずは近鉄が阪神、山陽など関係事業者間で十分な協議を行うことが必要と考えてございます。県としましては、今後、具体的な検討が進んだ段階で、協議の場が設けられれば参加するなど、公共交通の利用促進や広域観光による地域活性化の観点から、どのような対応ができるか検討してまいります。」

